

オハイオ州フィンドレー大学奨学生レポート

「挑戦」

こんにちは。毎回のレポートの冒頭にて、季節について触れてきましたが…ついに、ついに春が来ました。ポカポカとした春の日差しを感じます。陽も延び、8時ごろまで空が明るくなりました。

さて、前回のレポートにて、アメリカ人が日本を知らないことに驚いたということ。そして、さまざまな国の人と出会う面白さを伝えることができたか…ということをお話ししました。今回は、それを受けて私が行動したことをお話ししたいと思います。

一つは、元気キッズです。これは、アメリカ人の小学生を対象とした活動です。週に二回活動があり、日本の歌と一緒に歌ったり、日本語を教えたりしています。楽しいですが、自分の英語力と子供を楽しませるという面に、悩まされます。とくに、子供に楽しんでもらうという点です。楽しさを共有する、巻き込むというのは本当に難しいです。この活動は、放課後のクラブ活動のようなものなので、真面目に日本語を勉強するのではなく、楽しくゲームをしながら日本語に触れるというものです。

もう一つは、学校訪問です。これは、フィンドレー市内にある小学校を訪問し、日本を紹介するという活動です。こちらは、基本プレゼンテーションを使うので元気キッズよりも授業のような形です。ただ、子供たちはアクティビティが大好きなので、クイズやゲームなどは必ず入れるようにしています。この活動は、フィンドレー大学生が運営しています。日本でいうサークルのようなものです。その代表者と仲がよいので、なぜこの活動をしているのか話を聞いてみたところ、私が感じた「異文化を知らないというもったいなさ」を彼女も感じていて、問題だと思うからだと話してくれました。私たちが小学校へ行くことができるのは、小学校の先生方も、同じように感じていて生徒たちに機会を与えたいと思いい、サークルの活動方針に賛同してくれているからだということも話してくれました。

私の行動はどちらも、子供に対してでした。トリド日本人学校の教員になってから、子供という存在の大きさに驚き、彼らの成長に少しでも携わることにとてもやりがいを感じるからです。アメリカへ来るまで、自分が学ぶ側だと思っていましたが、自分よりも若い世代がいて、自分が学ぶ側でもある一方、伝える側でもあるということに驚きました。

出会った子供たちが、少しでも外の世界へ関心を持ってくれたら嬉しいです。



元気キッズの様子。